

人を支える。街を守る。子どもを育む。

市川市議会議員
(元市内小学校校長)

石原たかゆき

議会報告

ISHIHARA REPORT

Vol.01

お問い合わせ・市政相談：〒272-0034 千葉県市川市市川 2-33-5-401 TEL/ FAX 047-303-3732



一般質問で
初登壇 6月定例会

通学路の事故や虐待から 子どもを守る施策の充実と 中国分スポーツ広場に替わる スポーツ広場の新設を要望

市川市議会議員となって初の定例会を行いました。一般質問は、議員が考える市川市の課題に対して、当局の認識や解決に向けた計画などを問うもの。政策を提言する場でもあります。今回は、子どもが犠牲となる痛ましい事件・事故から、子どもを守る施策の充実と、中国分スポーツ広場の代替え施設について質問を行いました。以下抜粋で報告します。

通学路の安心安全

交通安全指導と

見守り活動の継続

今年5月、滋賀県大津市の交差点で普通乗用車と衝突した軽乗用車が、歩道で信号待ちをしていた園児らの列に突っ込み、保育園児2人が死亡14人が重軽傷を負うという事故が起きました。

事故を受け、子どもたちが利用する道路の安全を見直す動きが全国的に広がっています。

交通事故を防ぐには、ソフト・ハードふたつの側面があります。まずソフト面として、市川では、子どもたちの交通安全や危機管理意識向上のためにどう取り組んでいるか、また事故後にどのような対応をしたのか確認しました。

「各学校で計画に基づき交通安全指導を行うと共に、交通安全マップづくり等を通じ安全意識を高

める学習を行ってきた。大津市の事故後は、各学校に危険箇所について注意を促し、児童生徒への指導の徹底を通知。今後は信号待ちや青信号で道路を横断する際など、安全と思われる場面での身の守り方を含め『危険予知能力』の育成強化を呼びかける」との答弁。

「見守り活動」など、子どもの安全に欠かせない地域の協力について、高齢化が懸念されるとの指摘には「継続して意義を発信し、協力を求めて行く」とのことでした。

引き続きの取り組みを要望しました。



市川市議会令和元年
6月定例会 6月24日
石原たかゆき一般質問
をYouTubeでご覧
いただけます



車止め等の整備で 通学路の安全を

大津市の事故の交差点には、車止めやガードレールが設置されていませんでした。

ハード面の改良などで物理的に、事故を防止したり、被害を軽減

できる対策もあるはずと指摘。特に地域の方から相談が寄せられている下記3交

差点について、改良の計画があるか問いました。

「事故後実施した安全施設の設置状況調査に3交差点は含まれており、今後詳細な現地確認を行って、ガードレールや車止めなどを設置したい」との回答を得ました。早急な対応を求めました。



▲ 富貴島小学校前交差点



▲ 南新浜小学校入口交差点



▲ 富美浜小学校体育館側交差点

市川市議会議員 石原たかゆき Profile

1957年船橋市出身。県立佐倉高校、専修大学卒業。34年間市川市を中心に教職につく。市川市立北方小学校及び鬼高小学校元校長。新任当初からサッカー部顧問となり競技を通じた人間力の育みに取り組む。2005年地域クラブ「若宮フットボールクラブ」を立ち上げ代表に就任。市川市サッカー協会第四種委員会（小学生の部）委員長。2019年4月市川市議会議員選挙に出馬し初当選。環境文教常任委員会副委員長。行徳臨海部に関連する特別委員会委員。

支える。守る。育む。石原たかゆきオフィシャルサイト

<https://ishiharatakayuki.com>

虐待から子どもを守る 子どもの立場で 最善を尽くす

長年教育界におり、学校という窓から、児童虐待に対応してきました。その経験を踏まえ、学校が虐待に対応する際に難しいこととして、「聞き取り」と「在宅支援」をあげ、学校と児童相談所、市役所など関連機関の連携強化の必要性を訴えました。

市川市内の虐待は、「支援計画を策定して継続的な支援をした子どもは、平成29年度は484名。5年前と比較すると1.5倍」という現状。野田市の虐待死のような痛ましい事件を受け、市川市も虐待防止策を強化。特に今年4月に子育て支援課に設置された「虐待対策担当室」に期待が寄せられています。「担当室設置により、人員も増え、地区を従来の5地区から7地区に分けられた。きめ細かな支援が実現できると考える」のこと。学校との連携協力に関しては、「校長・教頭の研修会などを通じて周知」するそうです。

対応が長引くにつれ、子どもをすぐに救えないという「ジレンマ」が薄れて行くという「落とし穴」があります。学校も虐待対策担当室も、常に子どもの立場に立ち、情報を共有し、「ジレンマ」を抱えながら、最善の策をとるよう強く求めました。

中国分スポーツ広場閉鎖に至った経緯と代替措置 求められる代替え スポーツ広場の新設



▲ 中国分スポーツ広場の現在の状況。更地のまま利用もされていない



中国分スポーツ広場閉鎖に おける当局の対応を指摘

かつて、市川のサッカー少年・少女たちが聖地としてあがめていた「中国分スポーツ広場」。年間約2万6千人もの利用者があったものの、平成29年度末で閉鎖となりました。

理由は、「地権者の強い変換希望があった」ためとのことですが閉鎖にあたり、多くの利用者の不信感を招いた対応について、以下2点の指摘をしました。

ひとつ目は、一番の利用者であるサッカー協会への通知が、閉鎖する29年度の半ばと遅かったこと。ふたつ目は、現在も更地のままであり、もう少し利用できたのではないかという点です。

サッカー協会の約40のクラブに所属するメンバー、コーチ、監督、5千人を超える保護者に対し、もう少し丁寧な説明をする必要があったと考えています。

現在の代替措置は不十分

一般質問では、中国分の代替措置を確認したうえで、当局が代替としている球技場は、利用のルールの制約やグラウンドの広さ・形状から、代替えとして利用できる場所が確保できたとは言えないと訴えました。

市民プール周辺に 多目的球技場の整備を計画

子どもたちが人工芝の上でサッカーができる場所を新設すべきでは、と提案したところ、「今年度は、廣瀬防災公園内の『健康広場』を人工芝に改修する。また、市民プール周辺では『市川市北東部スポーツタウン基本構想』に基づき、多目的球技場の整備計画を進める」との答弁。大人用1面のピッチで少年用が2面取れるような設計とするよう、要望しました。この施設が完成するまでには時間を要します。一日も早い新設を引き続き求めてまいります。



編集

後記

Vol.01

環境文教常任委員会 副委員長に就任

たくさんのご支援をいただき、市川市議会に送っていただきました。

会派は金子議員を代表とする「創生市川」に所属。5月の臨時議会で、常任委員会の委員を互選し、私は、環境文教常任委員会の副委員長を務めさせていただくこととなりました。

環境文教常任委員会は、教育、学校、生涯学習、環境保全、ゴミ事業、保健体育などに関わる議案や陳情・請願などを審議する委員会です。教育が活動の柱である私にとって、希望通りの委員会への所属が叶いました。これまでの教育現場での経験を生かして、子ども第一の視点から審議を行いたいと思います！

市政相談 お寄せください。



問い合わせフォームを
読み込めます。